

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovyCd=2277102394-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のアセスメントをしっかりとして入所されたその日からその方に合った心地良い生活が出来る様気を配っています。自分達に出来る事は何なのかもっと出来る事が有るのではないかとカンファレンスや社内研修等で日々研鑽を重ねています。そういう姿勢を感じて頂く事で御家族様方にも少なからず信頼を得ているのではないかと感じています。

事業所の理念である「思いやりの心・ぬくもりの心・支えあう心」の支えあうは職員が利用者を支えるだけでなく、利用者からの「大変だねありがとう」など思いやる言葉を聞いて支えてもらっていると感じ、日々理念に沿った支援を実践している。管理者とケアマネジャー全職員は家族の気持ちを理解する姿勢を持って傾聴している。前年度までは運営推進会議へ家族の参加があまりなかったが、日常的に交流する時間を増やし参加を促すことで、毎回数名の家族の参加が得られ、意見や感想を聞いている。又、終了時間をおやつタイムに合わせて利用者と一緒ににおやつを食べながら交流・歓談している。家族や地域住民の声から入居希望が多くなり待機者が増えてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所理念を伝えています。月1回のカンファレンス日々のミーティング等で確認し共有している。	「思いやる心・ぬくもりの心・支えあう心」の開設当初からの理念は継続され玄関に掲示されている。職員は利用者から「大変だね、ありがとう」など思いやる言葉を聞いて職員の方も支えてもらっていると感じている。職員同士で話し合う機会があり、共有して理念に沿った支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加して夏祭り・秋祭りの等で会話・地域との交流を持つ様日々心掛けています。	自治会長・民生委員から地域の行事の情報が入り祭り等には行ける人が職員と一緒に参加して交流している。年1回地元中学生の職場体験の受け入れをしている。今は出来ないが、老人会や子供会との交流を考えている。	地域密着型の事業所として自治会の協力を得るなどし、日常的に地域と交流する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方よりの相談にはきめ細やかな対応をし様々な介護サービスについての説明を分かり易く行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際出して頂いた意見をサービス向上へ繋げる様努めています。防災への共通認識を深め協力体制を保っている。	自治会長・民生委員・市介護保険課職員・地域包括支援センター職員と毎回数名の家族の参加があって2ヶ月に1度開催している。終了時間をおやつタイムに合わせ利用者と一緒に交流・歓談している。地域や行政・家族からの意見、要望をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に施設のパンフレット送付や電話での対応をする等丁寧な説明をしています。	市から主にメールで研修案内や法改正の件等で連絡が入り、参加している。市職員や地域包括支援センター職員とは推進会議への出席時などで話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束の理念を研修等で徹底しその実践を心掛ける様指導している。入居者様御家族には入居時の契約の際に説明を行っている。	月1度の本社研修ではリーダーが参加し、職員にはミーティングで伝達している。身体拘束の研修も行っている。各ユニットの扉はなく玄関の施錠もないので利用者は行動制限のない自由な生活があり、外に1人で出て行く人もいて、職員が後ろからさり気ない見守り(2キロメートル範囲位)で思いを叶えている。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	他施設や新聞報道でのケース等を参考にして職員間での行動・言葉使いを相互に注意を払う環境を心掛けています。毎月実施している研修の中でも取り入れられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1度の内部研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明をし理解を得られてから契約の署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見・要望に関しては必要に応じ会議の場で話し合いの場を持ちます。御家族様には面会・行事の際に個別の相談で御意見を頂く様にしています。また、意見箱の設置も有ります。	管理者とケアマネジャー・職員は家族と接する時は傾聴に徹し、信頼関係が出来ている。家族から多数意見や要望を聞いている。推進会議に参加時「面会時に居室以外に歓談する場所が欲しい」と要望が出て、2階の事務所を改造したり、廊下にソファを設置して家族や外部の提案を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回位のカンファレンスや日々のミーティングの場で意見を聞き要望をまとめ事務長に伝えるケースも有ります。	職員は利用者の為にしてあげたいことや気がついたことを提案し、ケアの意見はケアマネジャーに伝え、計画で反映、皆でやってみよう等レクリエーションで反映させている。備品の購入希望やハード面の修理・勤務体制など本社の事務長に伝える仕組みになっていて、概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が日々向上心を持ち健康的に働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技能レベルに応じ研修を受ける機会を設け介護の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や他施設での行事に参加することで交流し刺激を受ける機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないというケースが多いので御本人のお話に傾聴・共感する時間を多く持ち御家族を含め安心して生活が出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にしっかりと話を聞きアセスメントをする事で入居後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族との話し合いの中で何が必要な支援なのかを見極め対応する様している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」と言う事を常に考え出来る事は積極的にして頂く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を御家族に促し面会時に入居者様の日々の様子を詳しくお伝えし常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に御本人の馴染みや思入れの有る品を持って来て頂く様お願いしている。御本人の希望が有れば御家族に外出をお願いする事もある。	会社を運営していた利用者の社員が数名職場から社内広報を持って継続して来ている。歓談室で過ごす時お茶の接待をして再訪問の言葉掛けをしている。入居前に行っていたスーパーへ家族と一緒に行き買い物や軽食を楽しんでくることがある。習字や事業所内でカラオケで歌う等得意だったことの継続支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しその時々 に必要に応じた対応で職員は中立を守りつ つ間に入り傾聴しそれぞれを孤立させない 支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその方のお知り合いの入居の相談を浮けたり介護サービスでの疑問・相談を受け付ける準備が有る事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に御本人の希望を確認し変更が有ればその都度更新する様にしている。	家族や以前の施設からの情報を基に声掛け、思いを把握している。入浴時にその人の適温を知ることがあったり、食事をしている時好き嫌いが初めて解るなど日常接している中で個別の状態を観察して、出る言葉や表情から思いや要望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に御本人、御家族、ケアマネ等より過去の生活歴や嗜好、他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は経過記録、生活管理表に忠実に記録し個々の心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方は先ず御本人の希望を第一に考え御家族の意向も踏まえ現状も考え御本人がより安心して暮らしていく為の介護計画を作成している。	計画作成の担当者会議では出来るだけ多くの職員と、本人・家族も参加し出された意見や意向をふまえて話し合っている。ケアマネジャーが暫定的に作成した計画書を基に、職員からの意見を聞き、本人・家族の思いが反映され居心地良く生活できるような現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録したものをカンファレンスやミーティングの場で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の身体状況や御家族の状況を常に考えてグループホーム以外との連携も検討する事も有ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の生活を楽しく頂ける様個人の生活を支えている地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をし適切かつ最善の医療を受けられる様支援をしている。	入居者全員が事業所の提携医で月2回往診がある。レントゲンや心電図などの検査は職員対応で提携医に行っている。他科受診は日常の様子を記した書面を持参して家族が対応し、状況によっては管理者かケアマネジャーが同行している。提携医は緊急時夜中の対応があり、適切な医療を受けられてい	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて総合病院への連携が円滑に取れている。入院時には面会に行く際、病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての説明をしている。状態に応じ医師・看護師・管理者・ケアマネで話し合い家族の希望を第一に施設で出来る範囲の支援をしている。	入居時に看取りの説明をし、家族の意向を確認している。状態が悪化した時医師の指導の下、訪問看護師と家族の協力を得て施設で出来る範囲の支援を行っている。普通食が食べられなくなっても経口摂取可能な栄養補助食品については家族の自費協力も必要な場合もある為、家族と医師・看護師との相談も考慮している。連携して今年は3名の看取	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し急変時の対応方法の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や点検業者、消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。	キッチンから出火の火災を想定した訓練を行っている。推進会議で自治会長から家族に避難場所の話や近くの事業所に津波時に非難できることなど話をしてくれている。自治会と交流して地域との連携・協力体制作りを努めている。次回は地震津波想定訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であられる入居者様に対し失礼の無い様な言葉掛けを常に心掛けている。	本人の希望の呼び名が「…ちゃん」であっても状況を考慮しながら、馴れ合いになって失礼にならない声掛けをしている。個別に以前の生活歴を把握して気持ちよくすごせるような対応をしている。居室・トイレの入室時には必ずノックし、承諾を得てから入室をする対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との日中の会話での希望をお聞きし気持ちを汲み取り寄り添う援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時以外は決まりを特に設けずに天候や季節に応じ個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい服を選んで頂いている。お気に入りの帽子やバッグが有れば外出時に使用して頂く等、個人の好みを尊重する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、可能な方には配膳・片付けを一緒に行って頂く。食事介助は最低限として御自分で食べられる環境作りに努めている。	職員は利用者の間に入り、目の不自由な人や食事に関心が少なくなっている人に料理の説明、食材や季節の話等を添えて食欲をそそり美味しく食べてもらえる支援をしている。手作りおやつや流しそうめんをすることもあり、外食で回転寿司へ年数回出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態や体重の増減を把握し食事量・水分量が充分確保出来る様な食事形態にも対応している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、口腔スポンジを使用しているケア等、個人の能力に対応したケアを毎食後行っている。又、必要に応じ月2回訪問歯科の往診がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方の排泄パターンを把握し出来る限り日中はトイレでの排泄援助をしている。夜間帯はオムツを使用されていても日中はトイレでの排便を促す等、入居者が快適と感じられる援助を行っている。	自力でトイレに行った後には声掛けして様子を聞いたり、さり気なくトイレ内の確認をしている。個別に身体状況を把握し夜間はトイレまで行くより安全なPTイレ使用の方が良い人や夜間帯のオムツやパッドの大きさを変えるなど試行して、安眠等の成功例がある。おむつの減量にも繋がっている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず水分摂取を促したりヨーグルトを食べて頂いたり工夫をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を記録し基本的には隔日で入浴して頂いている。入浴時間も御本人の希望に沿う支援をしている。	午前中に本人の希望を聞いて11時から16時までの間に入浴をしている。拒否する人には無理強いせず声掛けの工夫をして週2~3回は入浴している。同姓介助の希望は聞いて羞恥心に配慮した対応に努めている。1対1になる入浴時が本音や昔の話が聞けると寄り添う支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れが見られれば休憩時間を取り夜間帯はエアコンや加湿器で室温等を小まめに調整し掛布団・毛布で調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を使用し薬効・用途の理解に努め看護師より服薬時の注意事項を説明しその重要性について説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力が発揮出来る環境整備・洗濯物の干したたみから料理の下準備の補助等の「役割」をお願いしている。買い物等の外出の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのドライブ等、個人の好みに応じて行っている。御本人からの希望に応じ御家族の協力を願い出掛けられる援助をしている。	裏庭の畑の雑草とりや駐車場に出て外気浴をしている。天候や利用者の状態を見て散歩や買い物に出かけたり、突然「花を見に行きたい」声がある状況がゆるせばいける人で行くこともある。季節の外出レクでのドライブや家族対応の外食・買い物・馴染みの場所へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は支払いを出来るだけ御本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや便箋を御本人から希望があれば購入し電話も事務所のものを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた草花を玄関やリビングに飾り施設内の節句の飾りで入居者様に四季を感じて頂ける様工夫している。また、生け花をして楽しむ事もある。	各ユニットに扉がなく、利用者は自由に入出りができ、開放的な作りになっている。居心地良く過ごせるよう利用者同士の相性や、穏やかな視線範囲を考えた席の配慮をしている。利用者が上がるには高い畳のスペースはボランティアの舞台として使用している。家族の希望で利用者と歓談する場所として事務所を改造したり、廊下にソファを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを玄関先には長いすを置きプランターの花々を觀賞しながら入居者様同士でコミュニケーションを取る事が出来る環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御自宅で愛着のあった家具や趣味の物、写真等を持ってきて頂く様お願いしている。特に写真は多くの方が部屋に置かれている。	各ユニットに1組ずつの夫婦が入居していて寝室と寛げる居間とに分けて部屋使用をしている。居室担当職員は家族と意向に沿った居室作りや衣類の管理をしている。馴染みの俳優のプロマイドを壁に貼ったり、歌手のCDを持ち込み職員の支援で聞いている。毎日化粧をする人もいてその人らしい居室になっ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かしたその方らしい生活を目指す介護を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所理念を伝えています。月1回のカンファレンス日々のミーティング等で確認し共有している。	「思いやる心・ぬくもりの心・支えあう心」の開設当初からの理念は継続され玄関に掲示されている。職員は利用者から「大変だね、ありがとう」など思いやる言葉を聞いて職員の方も支えてもらっていると感じている。職員同士で話し合う機会があり、共有して理念に沿った支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加して夏祭り・秋祭りの等で会話・地域との交流を持つ様日々心掛けています。	自治会長・民生委員から地域の行事の情報が入り祭り等には行ける人が職員と一緒に参加して交流している。年1回地元中学生の職場体験の受け入れをしている。今は出来ないが、老人会や子供会との交流を考えている。	地域密着型の事業所として自治会の協力を得るなどし、日常的に地域と交流する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方よりの相談にはきめ細やかな対応をし様々な介護サービスについての説明を分かり易く行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際出して頂いた意見をサービス向上へ繋げる様努めています。防災への共通認識を深め協力体制を保っている。	自治会長・民生委員・市介護保険課職員・地域包括支援センター職員と毎回数名の家族の参加があって2ヶ月に1度開催している。終了時間をおやつタイムに合わせ利用者と一緒に交流・歓談している。地域や行政・家族からの意見、要望をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に施設のパンフレット送付や電話での対応をする等丁寧な説明をしています。	市から主にメールで研修案内や法改正の件等で連絡が入り、参加している。市職員や地域包括支援センター職員とは推進会議への出席時などで話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束の理念を研修等で徹底しその実践を心掛ける様指導している。入居者様御家族には入居時の契約の際に説明を行っている。	月1度の本社研修ではリーダーが参加し、職員にはミーティングで伝達している。身体拘束の研修も行っている。各ユニットの扉はなく玄関の施錠もないので利用者は行動制限のない自由な生活があり、外に1人で出て行く人もいて、職員が後ろからさり気ない見守り(2キロメートル範囲位)で思いを叶えている。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設や新聞報道でのケース等を参考にして職員間での行動・言葉使いを相互に注意を払う環境を心掛けています。毎月実施している研修の中でも取り入れられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1度の内部研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明をし理解を得られてから契約の署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見・要望に関しては必要に応じ会議の場で話し合いの場を持ちます。御家族様には面会・行事の際に個別の相談で御意見を頂く様にしています。また、意見箱の設置も有ります。	管理者とケアマネジャー・職員は家族と接する時は傾聴に徹し、信頼関係が出来ている。家族から多数意見や要望を聞いている。推進会議に参加時「面会時に居室以外に歓談する場所が欲しい」と要望が出て、2階の事務所を改造したり、廊下にソファを設置して家族や外部の提案を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回位のカンファレンスや日々のミーティングの場で意見を聞き要望をまとめ事務長に伝えるケースも有ります。	職員は利用者の為にしてあげたいことや気がついたことを提案し、ケアの意見はケアマネジャーに伝え、計画で反映、皆でやってみよう等レクリエーションで反映させている。備品の購入希望やハード面の修理・勤務体制など本社の事務長に伝える仕組みになっていて、概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が日々向上心を持ち健康的に働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技能レベルに応じ研修を受ける機会を設け介護の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や他施設での行事に参加することで交流し刺激を受ける機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないというケースが多いので御本人のお話に傾聴・共感する時間を多く持ち御家族を含め安心して生活ができる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にしっかりと話を聞きアセスメントをする事で入居後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族との話し合いの中で何が必要な支援なのかを見極め対応する様している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」と言う事を常に考え出来る事は積極的にして頂く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を御家族に促し面会時に入居者様の日々の様子を詳しくお伝えし常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に御本人の馴染みや思入れの有る品を持って来て頂く様お願いしている。御本人の希望が有れば御家族に外出をお願いする事もある。	会社を運営していた利用者の社員が数名職場から社内広報を持って継続して来ている。歓談室で過ごす時お茶の接待をして再訪問の言葉掛けをしている。入居前に行っていたスーパーへ家族と一緒に行き買い物や軽食を楽しんでくることがある。習字や事業所内でカラオケで歌う等得意だったことの継続支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しその時々に必要な応じた対応で職員は中立を守りつつ間に入り傾聴しそれぞれを孤立させない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその方のお知り合いの入居の相談を浮けたり介護サービスでの疑問・相談を受け付ける準備が有る事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に御本人の希望を確認し変更が有ればその都度更新する様にしている。	家族や以前の施設からの情報を基に声掛け、思いを把握している。入浴時にその人の適温を知ることがあったり、食事をしている時好き嫌いが初めて解るなど日常接している中で個別の状態を観察して、出る言葉や表情から思いや要望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に御本人、御家族、ケアマネ等より過去の生活歴や嗜好、他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は経過記録、生活管理表に忠実に記録し個々の心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方は先ず御本人の希望を第一に考え御家族の意向も踏まえ現状も考え御本人がより安心して暮らしていく為の介護計画を作成している。	計画作成の担当者会議では出来るだけ多くの職員と、本人・家族も参加し出された意見や意向をふまえて話し合っている。ケアマネジャーが暫定的に作成した計画書を基に、職員からの意見を聞き、本人・家族の思いが反映され居心地良く生活できるような現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録したものをカンファレンスやミーティングの場で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の身体状況や御家族の状況を常に考えてグループホーム以外との連携も検討する事も有ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の生活を楽しく頂ける様個人の生活を支えている地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をし適切かつ最善の医療を受けられる様支援をしている。	入居者全員が事業所の提携医で月2回往診がある。レントゲンや心電図などの検査は職員対応で提携医に行っている。他科受診は日常の様子を記した書面を持参して家族が対応し、状況によっては管理者かケアマネジャーが同行している。提携医は緊急時夜中の対応があり、適切な医療を受けられてい	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて総合病院への連携が円滑に取れている。入院時には面会に行く際、病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての説明をしている。状態に応じ医師・看護師・管理者・ケアマネで話し合い家族の希望を第一に施設で出来る範囲の支援をしている。	入居時に看取りの説明をし、家族の意向を確認している。状態が悪化した時医師の指導の下、訪問看護師と家族の協力を得て施設で出来る範囲の支援を行っている。普通食が食べられなくなっても経口摂取可能な栄養補助食品については家族の自費協力も必要な場合もある為、家族と医師・看護師との相談も考慮している。連携して今年は3名の看取	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し急変時の対応方法の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や点検業者、消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。	キッチンから出火の火災を想定した訓練を行っている。推進会議で自治会長から家族に避難場所の話や近くの事業所に津波時に非難できることなど話をしてくれている。自治会と交流して地域との連携・協力体制作りを努めている。次回は地震津波想定訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であられる入居者様に対し失礼の無い様な言葉掛けを常に心掛けている。	本人の希望の呼び名が「・・・ちゃん」であっても状況を考慮しながら、馴れ合いになって失礼にならない声掛けをしている。個別に以前の生活歴を把握して気持ちよくすごせるような対応をしている。居室・トイレの入室時には必ずノックし、承諾を得てから入室をする対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との日中の会話での希望をお聞きし気持ちを汲み取り寄り添う援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時以外は決まりを特に設けずに天候や季節に応じ個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい服を選んで頂いている。お気に入りの帽子やバッグが有れば外出時に使用して頂く等、個人の好みを尊重する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、可能な方には配膳・片付けと一緒に行って頂く。食事介助は最低限として御自分で食べられる環境作りに努めている。	職員は利用者の間に入り、目の不自由な人や食事に関心が少なくなっている人に料理の説明、食材や季節の話等を添えて食欲をそそり美味しく食べてもらえる支援をしている。手作りおやつや流しそうめんをすることもあり、外食で回転寿司へ年数回出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態や体重の増減を把握し食事量・水分量が充分確保出来る様な食事形態にも対応している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、口腔スポンジを使用しているケア等、個人の能力に対応したケアを毎食後行っている。又、必要に応じ月2回訪問歯科の往診がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方の排泄パターンを把握し出来る限り日中はトイレでの排泄援助をしている。夜間帯はオムツを使用されていても日中はトイレでの排便を促す等、入居様が快適と感じられる援助を行っている。	自力でトイレに行った後には声掛けして様子を聞いたり、さり気なくトイレ内の確認をしている。個別に身体状況を把握し夜間はトイレまで行くより安全なPTイレ使用の方が良い人や夜間帯のオムツやパッドの大きさを変えるなど試行して、安眠等の成功例がある。おむつの減量にも繋がっている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず水分摂取を促したりヨーグルトを食べて頂いたり工夫をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を記録し基本的には隔日で入浴して頂いている。入浴時間も御本人の希望に沿う支援をしている。	午前中に本人の希望を聞いて11時から16時までの間に入浴をしている。拒否する人には無理強いせず声掛けの工夫をして週2~3回は入浴している。同姓介助の希望は聞いて羞恥心に配慮した対応に努めている。1対1になる入浴時が本音や昔の話が聞けると寄り添う支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れが見られれば休憩時間を取り夜間帯はエアコンや加湿器で室温等を小まめに調整し掛布団・毛布で調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を使用し薬効・用途の理解に努め看護師より服薬時の注意事項を説明しその重要性について説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力が発揮出来る環境整備・洗濯物の干したたみから料理の下準備の補助等の「役割」をお願いしている。買い物等の外出の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのドライブ等、個人の好みに応じて行っている。御本人からの希望に応じ御家族の協力を願い出掛けられる援助をしている。	裏庭の畑の雑草とりや駐車場に出て外気浴をしている。天候や利用者の状態を見て散歩や買い物に出かけたり、突然「花を見に行きたい」声があって状況がゆるせばいける人で行くこともある。季節の外出レクでのドライブや家族対応の外食・買い物・馴染みの場所へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は支払いを出来るだけ御本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや便箋を御本人から希望があれば購入し電話も事務所のものを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた草花を玄関やリビングに飾り施設内の節句の飾りで入居者様に四季を感じて頂ける様工夫している。また、生け花をして楽しむ事もある。	各ユニットに扉がなく、利用者は自由に入出りができ、開放的な作りになっている。居心地良く過ごせるよう利用者同士の相性や、穏やかな視線範囲を考えた席の配慮をしている。利用者が上がるには高い畳のスペースはボランティアの舞台として使用している。家族の希望で利用者と歓談する場所として事務所を改造したり、廊下にソファを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを玄関先には長いすを置きプランターの花々を觀賞しながら入居者様同士でコミュニケーションを取る事が出来る環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御自宅で愛着のあった家具や趣味の物、写真等を持ってきて頂く様お願いしている。特に写真は多くの方が部屋に置かれている。	各ユニットに1組ずつの夫婦が入居していて寝室と寛げる居間とに分けて部屋使用をしている。居室担当職員は家族と意向に沿った居室作りや衣類の管理をしている。馴染みの俳優のプロマイドを壁に貼ったり、歌手のCDを持ち込み職員の支援で聞いている。毎日化粧をする人もいてその人らしい居室になっ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かしたその方らしい生活を目指す介護を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102394-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のアセスメントをしっかりと入所されたその日からその方に合った心地良い生活が出来る様気を配っています。自分達に出来る事は何なのかもっと出来る事が有るのではないかとカンファレンスや社内研修等で日々研鑽を重ねています。そういう姿勢を感じて頂く事で御家族様方にも少なからず信頼を得ているのではないかと感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所理念を伝えています。月1回のカンファレンス日々のミーティング等で確認し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加入して夏祭り・秋祭りの等で会話・地域との交流を持つ様日々心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方よりの相談にはきめ細やかな対応をし様々な介護サービスについての説明を分かり易く行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際出して頂いた意見をサービス向上へ繋げる様努めています。防災への共通認識を深め協力体制を保っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に施設のパンフレット送付や電話での対応をする等丁寧な説明をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束の理念を研修等で徹底しその実践を心掛ける様指導している。入居者様御家族には入居時の契約の際に説明を行っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設や新聞報道でのケース等を参考にして職員間での行動・言葉使いを相互に注意を払う環境を心掛けています。毎月実施している研修の中でも取り入れられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1度の内部研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明をし理解を得られてから契約の署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見・要望に関しては必要に応じ会議の場で話し合いの場を持ちます。御家族様には面会・行事の際に個別の相談で御意見を頂く様にしています。また、意見箱の設置も有ります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回位のカンファレンスや日々のミーティングの場で意見を聞き要望をまとめ事務長に伝えるケースも有ります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が日々向上心を持ち健康的に働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技能レベルに応じ研修を受ける機会を設け介護の質の向上に努めている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や他施設での行事に参加することで交流し刺激を受ける機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないというケースが多いので御本人のお話に傾聴・共感する時間を多く持ち御家族を含め安心して生活ができる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にしっかりとお話を聞きアセスメントをする事で入居後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族との話し合いの中で何が必要な支援なのかを見極め対応する様している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」と言う事を常に考え出来る事は積極的にして頂く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を御家族に促し面会時に入居者様の日々の様子を詳しくお伝えし常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に御本人の馴染みや思入れの有る品を持って来て頂く様お願いしている。御本人の希望が有れば御家族に外出をお願いする事もある。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しその時々に必要なに応じた対応で職員は中立を守りつつ間に入り傾聴しそれぞれを孤立させない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその方のお知り合いの入居の相談を浮けたり介護サービスでの疑問・相談を受け付ける準備が有る事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に御本人の希望を確認し変更が有ればその都度更新する様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に御本人、御家族、ケアマネ等より過去の生活歴や嗜好、他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は経過記録、生活管理表に忠実に記録し個々の心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方は先ず御本人の希望を第一に考え御家族の意向も踏まえ現状も考え御本人がより安心して暮らしていく為の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録したものをカンファレンスやミーティングの場で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の身体状況や御家族の状況を常に考えてグループホーム以外との連携も検討する事も有ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の生活を楽しくて頂ける様個人の生活を支えている地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をし適切かつ最善の医療を受けられる様支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて総合病院への連携が円滑に取れている。入院時には面会に行く際、病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての説明をしている。状態に応じ医師・看護師・管理者・ケアマネで話し合い家族の希望を第一に施設で出来る範囲の支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し急変時の対応方法の確認をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や点検業者、消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であられる入居者様に対し失礼の無い様な言葉掛けを常に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との日中の会話での希望をお聞きし気持ちを取り寄り添う援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時以外は決まりを特に設けずに天候や季節に応じ個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい服を選んで頂いている。お気に入りの帽子やバッグが有れば外出時に使用して頂く等、個人の好みを尊重する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時の際、可能な方には配膳・片付けと一緒に頂いて頂く。食事介助は最低限として御自分で食べられる環境作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態や体重の増減を把握し食事量・水分量が充分確保出来る様な食事形態にも対応している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、口腔スポンジを使用しているケア等、個人の能力に対応したケアを毎食後行っている。又、必要に応じ月2回訪問歯科の往診がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方の排泄パターンを把握し出来る限り日中はトイレでの排泄援助をしている。夜間帯はオムツを使用されていても日中はトイレでの排便を促す等、入居様が快適と感じられる援助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず水分摂取を促したりヨーグルトを食べて頂いたり工夫をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を記録し基本的には隔日に入浴して頂いている。入浴時間も御本人の希望に沿う支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れが見られれば休息時間を取り夜間帯はエアコンや加湿器で室温等を小まめに調整し掛布団・毛布で調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を使用し薬効・用途の理解に努め看護師より服薬時の注意事項を説明しその重要性について説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力が発揮出来る環境整備・洗濯物の干したみから料理の下準備の補助等の「役割」をお願いしている。買い物等の外出の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へのドライブ等、個人の好みに応じて行っている。御本人からの希望に応じ御家族の協力を願い出掛けられる援助をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は支払いを出来るだけ御本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや便箋を御本人から希望が有れば購入し電話も事務所のものを使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた草花を玄関やリビングに飾り施設内の節句の飾りで入居者様に四季を感じて頂ける様工夫している。また、生け花をして楽しむ事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを玄関先には長いすを置きプランターの花々を觀賞しながら入居者様同士でコミュニケーションを取る事が出来る環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御自宅で愛着の有った家具や趣味の物、写真等を持ってきて頂く様にお願いしている。特に写真は多くの方が部屋に置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かしたその方らしい生活を目指す介護を心掛けている。		